

30 ( '11 神戸大 )

【難易度】… 標準

 $i = \sqrt{-1}$  とする . 以下の問に答えよ .(1) 実数  $\alpha, \beta$  について , 等式

$$(\cos \alpha + i \sin \alpha)(\cos \beta + i \sin \beta) = \cos(\alpha + \beta) + i \sin(\alpha + \beta)$$

が成り立つことを示せ .

(2) 自然数  $n$  に対して ,

$$z = \sum_{k=1}^n \left( \cos \frac{2\pi k}{n} + i \sin \frac{2\pi k}{n} \right)$$

とおくとき , 等式

$$z \left( \cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n} \right) = z$$

が成り立つことを示せ .

(3) 2 以上の自然数  $n$  について , 等式

$$\sum_{k=1}^n \cos \frac{2\pi k}{n} = \sum_{k=1}^n \sin \frac{2\pi k}{n} = 0$$

が成り立つことを示せ .

【テーマ】: 複素数の計算

方針

(2) では , (1) で示した等式を利用します . (3) では , 複素数の相等がポイントとなります .

解答

(1) 【証明】

$$\begin{aligned} (\text{左辺}) &= \cos \alpha \cos \beta + i \cos \alpha \sin \beta + i \sin \alpha \cos \beta - \sin \alpha \sin \beta \\ &= \cos(\alpha + \beta) + i \sin(\alpha + \beta) \end{aligned}$$

ゆえに , 示された .

(証明終)

(2) 【証明】

$$\begin{aligned} (\text{左辺}) &= \sum_{k=1}^n \left( \cos \frac{2\pi k}{n} + i \sin \frac{2\pi k}{n} \right) \left( \cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n} \right) \\ &= \sum_{k=1}^n \left( \cos \frac{2\pi(k+1)}{n} + i \sin \frac{2\pi(k+1)}{n} \right) \quad (\because (1)) \\ &= \sum_{k=2}^{n+1} \left( \cos \frac{2\pi k}{n} + i \sin \frac{2\pi k}{n} \right) \quad \dots\dots (*) \\ &= z + \left( \cos \frac{2\pi(n+1)}{n} + i \sin \frac{2\pi(n+1)}{n} \right) - \left( \cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n} \right) \end{aligned}$$

ここで ,

$$\begin{aligned} \cos \frac{2\pi(n+1)}{n} &= \cos \left( 2\pi + \frac{2\pi}{n} \right) = \cos \frac{2\pi}{n} \\ \sin \frac{2\pi(n+1)}{n} &= \sin \left( 2\pi + \frac{2\pi}{n} \right) = \sin \frac{2\pi}{n} \end{aligned}$$

であるから ,

$$\begin{aligned} (\text{左辺}) &= z + \left( \cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n} \right) - \left( \cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n} \right) \\ &= z \end{aligned}$$

ゆえに、示された。

(証明終)

(3) 【証明】

(2) より、 $z \left( \cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n} - 1 \right) = 0$  であり、 $n \geq 2$  より、

$$0 < \frac{2\pi}{n} \leq \pi$$

であるから、 $\cos \frac{2\pi}{n} \neq 1$  である。したがって、

$$\cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n} - 1 \neq 0$$

となるので、 $z = 0$  である。すなわち、

$$\sum_{k=1}^n \left( \cos \frac{2\pi k}{n} + i \sin \frac{2\pi k}{n} \right) = 0 \iff \sum_{k=1}^n \cos \frac{2\pi k}{n} + i \sum_{k=1}^n \sin \frac{2\pi k}{n} = 0$$

であり、 $\sum_{k=1}^n \cos \frac{2\pi k}{n}$ 、 $\sum_{k=1}^n \sin \frac{2\pi k}{n}$  はともに実数、 $i$  は虚数単位であるから、

$$\sum_{k=1}^n \cos \frac{2\pi k}{n} = \sum_{k=1}^n \sin \frac{2\pi k}{n} = 0$$

が成り立つ。ゆえに、示された。

(証明終)

◆ ◆ ◆  
【解説】

(1) で、 $\cos \alpha + i \sin \alpha$  とありますが、これは複素数の表現方法の一つで『極形式』といいます。極形式を用いた計算は非常に便利なが多いので、大切な表現方法なのです。(1) では、三角関数の加法定理の逆を用いて証明をし、(2) では、(1) を利用した後、 $z$  を作るため (\*) のような変形を行います。その後  $z$  を作り不要なものを削除したり余ったものを加えたりして調整し、端数の部分が消えることを証明します。(3) では、次の複素数の相等関係を用いて証明をしています。

複素数の相等 …  $a, b, c, d$  は実数とする

$$\begin{cases} a + bi = c + di & \text{は } a = c, b = d \text{ のときに限り成り立つ。} \\ a + bi = 0 & \text{は } a = b = 0 \text{ のときに限り成り立つ。} \end{cases}$$